

多職種と結ぶ在宅の輪 ～地域包括ケアにおける薬剤師のサポートスキル～

菊池郡市薬剤師会（菊池支部） 泗水中央薬局
薬剤師 塚本 賢児

薬剤師って RPG ゲームでいうと後衛担当でサポート担当だと思っています。魔法使いや僧侶みたいな。薬や医療材料などが薬剤師の使える魔法です。前衛のお医者さんや歯科医師さん、看護師さんのようには目立たないけどいるととっても役に立つし便利！な存在だと思っています。



薬局は診療を終えた患者さんが最後に薬をもらいに来る最後の医療施設だったり、健康に関する情報を得に来る最初の医療施設だったり、健康や公衆衛生に関する物資を調達するためのサポート施設だったりと様々な顔を持っています。

そして薬剤師はその各場面において利用者の方から様々な情報を得て、問題点を抽出し、その問題を解決することのできる専門家を紹介する「医療福祉の各拠点へのハブ機能を持つ場所」の「コンシェルジュ」としての役割を担っていると思っています。

実際に私も「物忘れのあるご両親の介護が大変なのですね・・・。社協の方に連絡してみますね。ケアマネさんとも話してみますのでご担当の方のお名前は？」とか、「その症状は放っておかずにかかりつけの先生に相談してみてくださいね。」とか、「その症状はお口のメンテナンスをするとよくなることが多いそうですよ？かかりつけの歯医者さんはありますか？」などの会話を普段の業務中によくすることがあります。



このような機能を果たすために多職種の方と交流し、得意なことを理解し、つなげる。それが可能な場所にいる専門家だからこそ、この役割を大事にしたいと思っています。

上記のような関りがご縁で在宅訪問につながった患者さんでは、訪問介護士さんと連携してお薬の飲み忘れの情報を手に入れ、主治医の先生と処方内容を相談し、なるべく本人がわかりやすくなるような処方内容、作り方の工夫を行って訪問指導を担当していました。

今現在は施設に入られています。入られる当日にはご家族と一緒に薬局まで挨拶に来ていただいたことは印象深く覚えています。

その他、検査キットや市販薬、衛生介護用品、福祉用具、公衆衛生や環境に関する機器や物品など・・・様々な「魔法」を通して「各フィールド」で患者さんやそこに関わる多職種の方々と関わっていく薬剤師。

こんな便利屋さんをひとり持っておいてはいかがでしょうか？ぜひ気軽に薬剤師へご相談をお願いいたします。



次は介護支援センター明里 主任介護支援専門員の田中様にリレーします。